

豊富な機能で 質の高い服薬指導を支援

服薬指導支援システム「Navity（ナビティ）」



担当者から説明を受ける坂元さん

EMシステムズの「Navity（ナビティ）」は単なる電子薬歴ではない。患者満足度の向上に寄与する画期的な服薬指導支援システムだ。豊富な機能を搭載しているにもかかわらず、操作は至って簡単。「シンプル＆スピーディ」を合言葉に、質の高い服薬指導を応援する。今回は薬剤師の坂元深雪さんに「Navity」の素晴らしさを体験してもらった。

処方内容の変更点確認も容易

「Navity」の基本画面は、「今回処方情報」「処方監査情報」「生活習慣と嗜好品」「処方歴」「検査とバイタル」「服薬指導」の6つ。これらを目的に応じて、瞬時に切り替えることができるため、急ぎの患者を待たせることもない。

「今回処方情報」の画面では、左半分は今回の処方せん情報、右半分は前回の処方せん情報が表示され、一覧することができる。場合によっては画面を3分割し、過去2回の内容を表示することも可能だ。「今回処方情報」の画面では、処方内容の変更点を確認するのも容易。該当する薬品名の前には「初回」「用量」「用法」「追加」などの文字が表示される。「変更情報詳細」の画面を開けば、こうした変更点の詳細を一目で確認することもできるのだ。

一方、「処方歴」の画面で表示されるカレンダーは、重複や空白期間を確認するのに便利。処方と処方の間隔を

確認し、コンプライアンスの低下防止につなげることができる。

ここで注目したいのがカレンダーの数字の並び。一般的に日付の数字は左から右へと並ぶため、最新の情報は画面の右側に反映される。これでは左端にある薬品名から遠く離れてしまい、薬剤師も目で追っていく。そこで「Navity」は数字の並びを右から左へと変えた。この変更によって最新情報が薬品名のすぐ右側に来るようになったため、薬剤師も一目で把握することができる。坂元さんも「最新の情報が右端にあると、追うのが大変ですが、これなら一目で分かります」とご満悦だ。

SOAP形式にC(チェック)の欄も用意

「服薬指導」の画面では、右側にSOAP形式の指導登録欄を表示。ここにはC(チェック)の欄も用意した。次回来局時に確認したいことをあらかじめ、このC欄に登録しておけば、次回来局した際、自動的に画面右上に表示される。このため、引き継ぎ事項の確認も容易で、継続性のある服薬指導を展開することができる。

一方、「服薬指導」画面の左側は情報集を表示するスペース。ここには入力補助のためのものから薬品の情報参照のためのものまで計10種類の表示が可能。豊富な情報集の中から必要な情報をすぐに取り出し、閲覧することが

できる。坂元さんも「Navityは画面を通して、必要な情報をいろいろと拾えるところがいいですね」と納得の表情を見せる。

情報集の内容は指導登録欄に転記することが可能。操作はクリックして移動させるだけと簡単だ。「Navity」には症状、病名、コンプライアンスなど分類別の文言集も標準装備。よく使う言い回しなどをあらかじめ登録しておけば、さらに早い記録作成が可能となる。

飲み合わせも瞬時に確認

「Navity」ではこのほか、飲み合わせもボタン1つで瞬時に確認。医療用だけでなく、一般用との飲み合わせも確認できる。また、医療・検査情報が豊富なうえ、画面上で自由に書き込むことができる身体部位別の「シェーマ図」、症状の善し悪しを顔の表情で表した「フェイススケール」なども用意。検査値などの数値系情報をグラフ化する機能も搭載している。

一連の説明を受けた坂元さん。「グラフや医療・検査情報の図も良いですね。シェーマ図などもぜひ使ってみたいと思います。Navityにはすべてが詰まっているので、個人的にも欲しいくらいです」と太鼓判を押す。



服薬指導画面：左側には薬歴作成に利用する文言集や情報を選んで表示し、右側にSOAP形式で入力

提供：株式会社EMシステムズ